

落し金の金
J V、
面入札
市牟礼
学校敷
試験場
、県林
山口市
三つの
設を
者の所
など農
化を
て農林
施設を
新本館
流館、
設、鉄
し、23
開始を
洋林建
井工務
備は東
まっ
計・長
J Vが
4)ま

第3回総会と報告会開く 来年度以降も活動継続へ 近未来コンクリート研究会



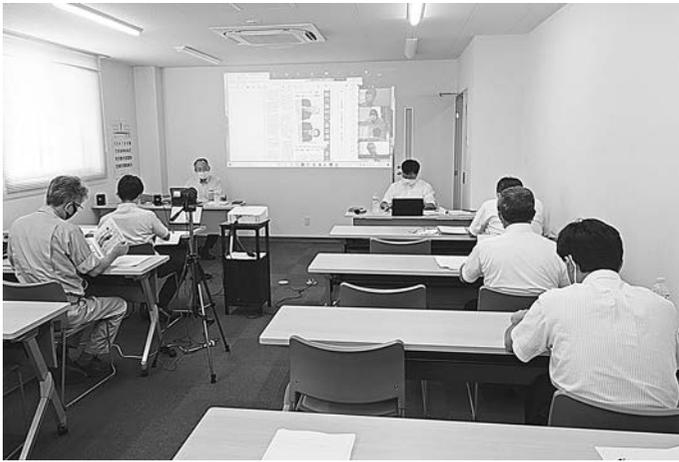
近未来コンクリート研究会（十河茂幸代表）は2日、広島市中区で第3回総会を開き、2020年度事業・収支決算報告など第1〜4号議案を報告。初期待び割れの抑制技術研究（C）協

議会は、RC構造物の延命化技術研究（M）協議会、構造物の生産性向上技術研究（P）協議会の3協議会による3年間の活動報告総括も行われ、今後コンクリート構造物の長寿命化のための異業種連携に向け、活動を継続する方針を申し合わせた。

イルス等の感染拡大に配慮し、会場参加とオンラインを組み合わせた「ハイブリッド方式」で開催。それぞれ年4回開催した3つのテーマ別協議会や現場見学会（三重県川上ダム）などの事業について報告があった。

各協議会による3年間の活動報告のうち、竹田宣典氏（広島工業大学）が主査を務めるC協議会では、温度ひび割れなどの施工時に発生しやすい構造物の不具合事例と対策について議論を重ね、「温度ひび割れ抑制にはフライアッシュの高添加が有効である」などの意見を集約。20年度には「初期ひび割れの抑制対策（案）」をまとめ、次年度以降も発注者、コンサルタント、施工者等で連携する方法を模索することとなった。

坂本英輔氏（広島工業大学）が主査を担当したP協議会では、現在進んできている建設機械の無人化やAI技術、マシンガイタンスやドローンを活用した現場管理の実例などを学んだ。一方、「書類作成への偏向や仕様にとられて杓子定規にならている」という最大の問題点が顕在化。次のフェーズとして現場に即座に適用できる提案や改革についての検討を進め、さらにSDGsやカーボンニュートラルに関しても議論するとした。



オンライン併用で開かれた総会

江良和徳氏（極東興和）が中心となって展開したM協議会では、劣化により生じた性能低下に対する長寿命化、延命化に対する技術や方策、評価、体制、人的資源、予算などの課題を抽出し、解決策などを議論。中でも、市町村などが所有する小規模橋梁の維持管理に着目し、M協議会、広島県土木協会との協働によって「小規模橋梁点検要領」の活用及び社会実装のための取組みを展開した結

果を報告し、今後も継続して実装に向けた活動を行う。

十河代表は、「この3年間で解決する問題ではないが、産学官の連携で耐久性に優れ、より良いコンクリート構造物ができる方策を模索し、社会に貢献できることを願ってやまない。今後もさらに活動を広げてきたこととして協力を求めている。

L490・3m、給水工N7カ所、舗装復旧工、附帯工各一式

改良に伴う配水管更新その1
参加資格：同

Fφ75、L123m、HPPE-EFφ50、L13m、給水工N12カ所、附帯工一式

1m、アスファルト舗装工（t5cm）、補助A614㎡、単独A691㎡、コンクリート舗装工（t

る者は、県内において、水質及び大気に関する環境調査業務を元請として履行し、完了した実績が

濁濃縮

工期：22年2月14日

工事場所：上高倉地内

帯工一式

コンクリート舗装工（t

履行し、完了した実績が